

No. 21

夢路 2-2History

平成26年5月7日

岡本奎一

GWは有意義に過ごせましたか？学習はもちろん大切ですが、部活動に熱心に取り組んだり、家族と共に過ごしたりといった時間も大事にしてくださいね。

先日、ある方のブログを拝見させてもらったのですが、そこに今、メジャーリーグのボストン・レッドソックスで活躍している上原浩治選手の話が載っていました。上原選手は読売ジャイアンツに入団したときから現在まで背番号「19」をつけていますが、その理由は“19歳の1年間を忘れないため”だそうです。



投手として活躍している上原選手ですが、高校時代はあまり目立った選手ではありませんでした。当時は控え投手で、公式戦でもわずか3試合ほどしか投げたことがなかったそうです。上原選手自身もポジションにあまりこだわりもなく、高校卒業後にプロになりたいとも思っていませんでしたが、野球を続けたいという思い、そして、推薦枠があるという理由から実家から通える大阪体育大学に進学しようと考えていました。しかし、チームメイトの一人が大阪体育大学の推薦を願い出てしまい、上原選手は一般入試で受験しましたが、結果は不合格でした。その後一年間、浪人することを決意したそうです。

「私は本当に死に物狂いで参考書と首っ引きになり、問題集と格闘した。
それこそ過去の十八年分を一気に取り戻すつもりで、机にかじりついた。
間違いなく、あの一年間が人生で最も真剣に勉強したと断言できる。」

「受験に失敗することなく、すんなり大学へ進学していたら人生は全く違っていたと思う」
『闘志力』より

上原選手自身が浪人生活の一年間について語ったものです。この一年間は野球も封印し、スポーツジムに通っただけで、ボールも触らなかったそうです。スポーツ選手にとってマイナスと思える状況を乗り越えた意志の強さには目を見張るものがありますね。

この一年間で学んだことが「何苦礎（なにくそ）」という心の大切さだそうです。人間誰しも、楽なときがあれば、苦しいときもあると思います。“苦しい”ときこそ、あきらめずに挑戦し続けられれば、自分にとって必ずプラスになるのだと思います。周囲に支えられていることに感謝をしつつも、最後は自分の力で乗り越えたいですね。上原選手と同じく、メジャーリーグで活躍した岩村明憲選手の言葉を借りれば、「人生は何ごとも苦しいことが楚（いしすえ）となります」。失敗を失敗として捉えるのか、それとも、成功へのステップとして捉え、自分にとってプラスの経験とするか、は自分次第です。自分を信じて、頑張ってください！

